

「韓国語研修 参加報告書」

京都大学教育学部4年 藤川ともみ

①学習成果

韓国語に関してはほぼ初心者として臨んだ韓国語研修であったが、3週間の研修の修了時には、ハンゲルの読み書き・レストランや道案内の会話表現といった基礎レベルの韓国語を習得することができた。現地で学ぶことで、授業で学んだ表現をすぐに実際のシチュエーションで使ってみられる、という言語学習には最高の環境で学ぶことができた。初日には自分一人では全く意志の疎通ができなかったタクシーの運転手や宿泊先の管理人の方と、帰国間近の頃には簡単な会話を交わせるようになったことに学習の成果を感じた。

また、講義や刑務所博物館・戦争博物館への訪問等を通じ、韓国社会や韓国の歴史について考えさせられることも多かった。特に、自分がいかに韓国に対する日本の加害者側の側面を知らず、そうした意識を持っていなかったかということに気付かされた。今回の研修をもって初めて、そうした面に目が行ったと言っても過言ではない程だった。

②海外での経験

私はこれまでに二度留学経験があるが、どちらも英語圏の国へ行っており、アジアで一定期間を過ごすのは今回が初めてであった。西洋の国に滞在していると、西洋文化との対比から、日本人と韓国人間で共通点や親近性を感じることも多い。しかし今回韓国に滞在したことで、そのときにはあまり見えていなかった日韓の違いを実感した。例えば、韓国では対人関係の距離感が日本よりも短いことや、地下鉄内で電話する人が多い、といった公共の場でのルールの違いである。両国のこうした違いを体感するのは非常に面白かった。

③プログラム内容

■語学研修

3週間に渡り、平日の9時～13時までソウル大言語教育院にて韓国語の授業を受けた。授業はレベル別に分けられており、私は一番下の入門者レベルで勉強した。初学習者を対象にしたレベルとは言え、ハンゲルの学習を2日で終えすぐに文法や会話表現の学習に移るなど、ペースは速く、全くの初心者だと結構苦戦するのではないかと感じた。実際に、同じクラスの受講者も、ハンゲルの読み書きは大体できるレベルで参加している学習者が殆どだった。授業は一クラス10人程度の少人数で行われ、授業中の言語は、韓国語と英語交じりで進められた。授業は4技能をバランス良く伸ばせるよう構成されており、特に2日に一回のペースで課されるロールプレイ課題は大変だったものの、学習した表現を定着させたりスピーキング力を向上させたりする上で効果的だった。

■京大生向け講義

京大生向けには、何度か社会学に関する講義があった。テーマは「朝鮮戦争記憶の国別比較」「日中韓の社会的距離比較」「在日朝鮮・韓国人の国籍」といったものだった。こうしたテーマについて、韓国人の視点を知る初めての機会であり、非常に興味深かった。3週間の語学研修だけでは目が向きづらいテーマを考える良い機会となった。講義は合計三回しかなく、物足りない気もしたが、語学研修の宿題や課題にも追われていたため、講義がもっとあればあったで大変だっただろうな、とも感じる。

■ソウル大日本専攻学生との交流会

ソウル大の日本専攻の学生10名程度との交流会があり、私たち京大生は、各々日本に関するテーマで発表した(私自身は京大や京大生の生活について紹介した)。日本語学習歴が長い学生が多く、基本的な日本文化の紹介というよりは、「日本の大学生の目線で紹介する日本」という発表が求められているように感じた。その後の食事会では、よりフランクな雰囲気の中、お互いの大学生活や入試の思い出、就職活動のことなどについて様々な話をした。

④進路への影響について

私は来年から日本企業の海外貿易・海外進出に関わる仕事に就くことを予定している。韓国へ赴任したり韓国語を使ったりする機会があるかは分からないが、今回の研修でそれが身近になったことは確実である。今後も韓国語を勉強し続けたいし、韓国赴任の機会があれば是非行ってみたいと思っている。